

比較家族史学会 報 比較家族史 30

事務局 〒101 東京都千代田区神田駿河台1-7 弘文堂気付
郵便振替 [会費] 00130 - 4 - 5222, [雑誌・その他] 00180 - 3 - 604964

比較家族史学会 第三三回研究大会

日時 一九九八年六月一三日(土)・一四日(日)
場所 明治大学(駿河台校舎) 大学院南講堂
住所 千代田区神田駿河台一―一 (地図参照)
テーマ 父―家族概念の再検討に向けて

■一日目(一三日) 午前十時から(午前九時半受付開始)

◆会長挨拶 井ヶ田良治
◆報告

・テーマ趣旨説明

孝本 貢(明治大学)

・考古学からみた家族・親族研究の動向

大村 直(財・市原市文化財センター)

10:15 ~ 10:40

・古代・中世における父

高橋秀樹(放送大学)

・近代日本における父

村上一博(明治大学)

10:40 ~ 11:05

(昼食)

・現代日本における婚外子と父

二宮周平(立命館大学)

・スウェーデンにおける婚外子と父

善積京子(追手門学院大学)

・他者としての「父」

―東マレーシア・サラワク州の国境の

村での婚外子の事例より

11:05 ~ 11:30

11:30 ~ 12:00

12:00 ~ 12:25

12:25 ~ 1:50

(休憩)

石川真由美

・質疑・応答(司会・田中茂樹)

(休憩)

・家族解体と父―フランス

丸山 茂(神奈川大学)

・親子法における真実と意思

―フランス法との比較

松川正毅(愛知学院大学)

・アフリカの父系・父権社会における父

松園万亀雄(都立大学)

・質疑・応答(司会・森謙二)

□懇親会(5:30~)

■二日目(一四日) (九時半受付開始)

・新宗教における父

石渡佳美(明治学院大学)

・理想的家族(家庭)像をめざしたキブツの実験

―望まれる父親像に接して

草刈善造(北海道教育大学)

・男性の次世代育成化

伊藤公雄(大阪大学)

・質疑・応答(司会・孝本貢)

(昼食)

◇総会

□シンポジウム(2:00~4:00)

テーマ報告者

司会者 村武精一(総括)・田中茂樹・服藤早苗

運営委員 孝本貢(委員長)・村武精一・田中茂樹

森謙二・飯沼賢司・山内健治

11:05 ~ 11:30

11:30 ~ 12:00

12:00 ~ 12:25

12:25 ~ 1:50

1:50 ~ 2:00

1:50 ~ 2:15

2:15 ~ 2:45

2:45 ~ 3:15

3:15 ~ 3:40

3:40 ~ 4:05

4:05 ~ 4:30

4:30 ~ 5:00

5:00 ~ 5:30

5:30 ~ 6:00

6:00 ~ 6:30

6:30 ~ 7:00

7:00 ~ 7:30

7:30 ~ 8:00

8:00 ~ 8:30

8:30 ~ 9:00

9:00 ~ 9:30

9:30 ~ 10:00

10:00 ~ 10:30

10:30 ~ 11:00

11:00 ~ 11:30

11:30 ~ 12:00

12:00 ~ 12:30

12:30 ~ 1:00

1:00 ~ 1:30

1:30 ~ 2:00

2:00 ~ 2:30

2:30 ~ 3:00

3:00 ~ 3:30

3:30 ~ 4:00

4:00 ~ 4:30

4:30 ~ 5:00

5:00 ~ 5:30

研究大会のテーマについて

今大会のテーマ「父—家族概念の再検討にむけて」の課題は、前大会において「父親論」がとりあげられその諸問題が提示されたのを受けて、さらに「父」そのものと家族概念との関わりを深化させる意図で設定された。

「父親なき社会」「父親の不在」ということばに象徴されるように父の存在が問われる時代である。前回の研究大会は、これまで父性・父子関係・父親について関心が払われてこなかったことを踏まえての父親論・父親の役割を論点とした研究大会であった。今大会では、これらの議論を踏まえつつ、各社会のなかで役割を与えられた父親の存在がどのようなものであったのかという問題とともに、多くの社会のなかで多様な形で存在するいわゆる「私生子（ここでは敢えてこのように表現しておく）」「婚外子（法制用語として）」の問題、さらにその背後にある「隠される（た）父親」に焦点をあてることにしたい。父性・父権の一般的家族論にとどまらず、「父」（ちち）という存在・価値・意味に関する多面的な問題を歴史学・民族学・法学・社会学等の学際的分野での議論をもとにしながらの包括的な家族概念の再検討を目的としている。

尚、今大会では、議論を深めるために、発表は以下のテーマ報告のみとし、三報告毎を一セッションとして、おおよそ歴史・制度・地域・

現代社会の課題別に各セッション毎の質疑・応答の時間を設定した。

大会第一日目の午前の部では、大村直氏（考古）・高橋秀樹氏（日本史）・村上博氏（法制史）の各報告者により日本の「父」についての歴史の変遷とその社会関係の変化が先史・古代・中世・近代の時間軸のなかで報告され、日本社会における「父」とその変化が問題とされるであろう。大村氏には弥生・古墳時代を中心に、高橋氏には平安中期～室町期を中心に、村上氏には近代日本についての報告をお願いした。午後の部では、社会制度・現代文化・地域における「父」を主題としたテーマにより報告をお願いした。

まず、二宮周平氏（民法）報告からは現代社会の認知・親権・氏・相続分など法制度と現実の乖離についての問題が議論されよう。続く善積京子氏（家族社会学）には現代スウェーデンにおける婚外子と父の問題をヨーロッパの福祉政策の一例として報告をお願いした。この両氏の報告において、我が国の直面する「父」と家族の諸問題が浮き彫りにされよう。さらに、通文化的議論の題材として石川真由美氏（社会人類学）からは、東マレーシアのイスラム教を中心とした民族の婚姻と父のあり方が報告される。

続いては、丸山茂氏（法社会学）により現代フランスの離婚・別居状況と父子関係のあり方から新たな家族関係についての示唆的な議論をお願いした。また、松川正毅氏（民法）報告

では丸山報告を受けて、現代フランス法との対比によるわが国の親子法の特徴ならびに父親の位置づけについて議論していただく。

第一日目の締めくくりとしては、松園万亀雄氏（社会人類学）により東アフリカの父系・父権社会における父と子の関係について報告をお願いした。父系社会における民族の資料のみならず松園氏の近年の「精子主義」「卵子主義」というキーワードにより、家族計画も含めた父と子の関係の変化について議論されよう。

大会第二日目の午前は、これまで充分には議論されてこなかった分野での「父」の問題に関わる報告をお願いした。まず、石渡佳美氏（宗教学）からは、新宗教内での男性信者・夫・父に焦点が当てられる。この分野では従来、女性信者・妻・母の問題はとりあげられてきたが、新宗教と新たに父に関わる議論が展開されよう。草刈善造氏（教育人間学）からは、キブツにおける父の課題が報告される。長年にわたりキブツを観察してこられた氏の資料よりキブツ集団の現状・変化からみた「父」・理想の家族問題がとりあげられる。本大会のテーマ報告の最後として、伊藤公雄氏（社会学）より男性の次世代育成化というテーマにより現代社会における「父」「男性」の位置づけを包括的に議論していただく予定である。

大会二日目のシンポジウムにおいては、一日間にわたるテーマ報告にもとづいて、全報告者・会場参加者による質疑・応答をおこなう予

定である。司会担当は村武精一（総括）・田中茂樹・服藤早苗による。

今大会では、従前の研究において十分に議論されなかった「隠される（た）父親」をキーワードとした諸課題に焦点をあて、家族とは何か、家族概念に向けた新たな議論を試みたい。

（運営委員会委員長・孝本貞）

運営委員会からのお知らせ

1 研究大会・懇親会への出欠については、同封の葉書にては、同封の葉書にて五月末日までにお知らせ下さいませようお願いします。なお、大会参加費は一〇〇〇円、懇親会費は四〇〇〇円です。参加費等は、当日受付にてお支払いください。会員以外の方の参加も歓迎いたします。

2 研究大会の会場は明治大学大学院棟南講堂です。懇親会会場は大学院内第一会議室で行います。地図をご参照下さい。

3 一四日（日）のみ昼食のお弁当を準備いたします。弁当は一〇〇〇円前後になる予定です。弁当希望者は予め同封の葉書にてお申し込みください。

4 宿泊につきましては、特に斡旋しておりませんので各自でお申し込みください。

5 大会会場への最寄りの交通機関は下記の通りです。

いずれの駅からも徒歩5分程度です。

6 JR中央線・総武線・お茶の水駅下車
・地下鉄千代田線、新お茶の水駅下車
・地下鉄丸の内線、お茶の水駅下車
大会に関するお問い合わせは、左記にお願いいたします。

明治大学商学部 孝本貞研究室

〒〇三―五三〇―一三〇三

明治大学政経学部 山内健治研究室

〒〇三―三三九六―二二一四

住所 〒二〇一―八三一 東京都千代田区

神田駿河台1-1

明治大学研究棟七二八室山内研究室気付
第33回比較史学会研究大会事務局

事務局からの連絡

1 会費納入のお願い

一九九八年度会費の納入をお願いいたします。同封の振込用紙をご利用ください。封筒の住所ラベル右下の数字が納入済み年度を示しています。年会費は、三〇〇〇円です。なおラベルに記載された数字は、四月二〇日現在のものです。本年は、理事その他役員改選の年となっております。理事選挙の選挙権者、被選挙権者は、学会規約上前年度（一九九七年度）までの会費納入者となっておりますので、会費を滞納されている会員はお早めにお支払いくださいませようお願いします。

2 『シリーズ比較家族』の購入について

本年三月に早稲田大学出版部より丸山茂・橘川俊忠・小馬徹編『家族のオートノミー』が刊行されました。定価は三、四〇〇円プラス税です。比較家族史学会の会員は、二割引きで購入できますので、購入希望者は本学会の会員であることを明記して、同封のハガキで直接早稲田大学出版部にお申し込みください。

なお、『シリーズ比較家族』第一期（一〇冊）は、今回の『家族のオートノミー』をもって完結しました。本学会の成果は、引き続き第二期シリーズとして刊行される予定です。



3 『比較家族史研究』第二三号の原稿募集

『比較家族史研究』第二三号は、まもなく会員のお手元に届く予定です。

明年刊行の第二三号の原稿を募集します。掲載を希望される会員は、その旨編集委員長の吉野晃先生までご連絡をお願いいたします。執筆要綱等は、後日あらためてお知らせします。

吉野 晃

〒一八四 東京都小金井市貫井北町四一―一
東京学芸大学教育学部地域研究学科吉野研究室
☎〇四二三―二九一七三三三

4 『事典家族』の購入について

本学会より刊行されました『事典家族』は、会員は定価(二二、〇〇〇円)の二割引きで購入できます。購入希望者は、本学会の会員である旨を伝えて、直接弘文堂の担当者(浦辻雄次郎氏)まで申し込んでください。

申込先

〒一〇一 東京都千代田区神田駿河台一―七
弘文堂編集部(浦辻氏)
☎ 〇三―三三九四一七〇〇三
FAX 〇三―三三九四一七〇三四

5 住所・所属の変更について

住所・所属の変更がございましたら、振込用紙に記入されるか、もしくは左記宛にご連絡ください。入会関係書類につきましても、同様に左記宛郵送をお願いいたします。

牧田 勲

〒五七二 大阪府寝屋川市池田中町一七―八
摂南大学法学部牧田研究室
☎〇七二〇―三九一九二八一(大学)

理事会議事録

◎日時 一九九七年一月一四日
場 所 名城大学法学部会議室

1 新入会員の承認・退会者の報告(別項参照のこと)

2 前年度会計報告(特別会計)と承認

3 研究大会の準備状況
いくつかの開催候補校はあがったが、もろもろの事情で決定にいたらず、引き続き交渉をすすめることとなった。

4 『比較家族史研究』の編集・刊行について
一部原稿は入稿。論文は査読中。年度内刊行をめざす。

5 『シリーズ比較家族』の刊行について
『家族のオートノミー』は順調に編集作業も進み、まもなく刊行予定(本年三月に刊行された)。「扶養と相続・継承」は、執筆予定

者に原稿を依頼済み。締切日は一九九七年一〇月末日。「名前」「女性祭祀」は、原稿未入稿あり。

6 企画委員会経費の件

学会のテーマ設定は、本学会の学際的学会という性格からして熟慮の上なされるべきであるが、従来長期的計画的なテーマ設定がなされているとはいいがたい。企画委員会メンバーがなかなか集まらない事情もあり、そこで学会時以外にも企画委員会を開催し、今後のテーマを検討してもらうこととなった。そのため企画委員会経費として二〇万円を支出し、その経費とすることが承認された。(使途については企画委員長に一任。一九九八年二月に開催予定)

なお、その討議資料とするため、一九九七年一二月に研究大会で取り上げてほしいテーマについて会員にアンケートを実施することになった(一二月に実施)。

7 学術会議関連報告
経過報告、公開促進費の件、研連委員委任の件など。

8 その他

◎日時 一九九七年二月六日

場 所 大阪工業大学六〇周年記念館会議室

1 明年春の研究大会会場について

名城大学での研究大会後、企画委員会より次回研究大会の会場校を募ったところ、大阪大学の田中秀樹先生よりお申出があった。このため阪大での開催を目指してきたが、諸般の事情により再検討のやむなきにいたる。春は東京(東日本)開催の原則もあることから、近日中に東京の大学に開催を打診し、早急に開催校を決めることとなった。(その後明治大学に決定、詳細は本会報を参照)

2 大会テーマ・運営委員について

次回大会のテーマは、名城大学での大会テーマ(「父親論―父権・父性を問う」)をふまえておこなう。運営委員として、飯沼賢司・田中茂樹・森謙二・孝本貢・山内健治氏に依頼。その他一〜二名の参加を求める。

3 アンケートの実施について

企画委員会よりのアンケートには、今後研究大会で取り上げて欲しいテーマ、現段階で報告可能なテーマ、会場校提供の意思や可能性を問うこととする。

4 役員選挙について

規約の確認。前年度会費納入者のみ選挙権、被選挙権があることを会員に周知させる。

総会議事録

新入会員

◎日時 一九九七年一月一日

場 所 名城大学太白一―号館特別教室

海老沢美広

朝日大学 国際家族法

1 新入会員の紹介

島 直子

上智大学大学院 家族社会学

2 会計報告(特別会計)

3 次回研究大会について

大会会場未定の旨、報告。

李 映京

東京外国語大学大学院 日本地域研究

4 『比較家族史研究』の編集と刊行

宇佐見一雄

5 『シリーズ比較家族』刊行進捗状況報告

山脇 貞司 帝京大学大学院 民法(家族法)

『家族のオートノミー』の編集作業は終わり、まもなく刊行。本書をもって第一期十巻が完結し、引き続き第二期シリーズの刊行が始まる旨報告。「女性祭祀」「名削」は原稿待

山本 正和 静岡大学 民法(家族法)

「扶養と相続・継承」は原稿執筆を依頼。

山本 正和

学園大学 社会学 梶山女

6 企画委員会報告

研究大会テーマについてアンケートを実施する。年明けに企画委員会を開催し、今後の研究大会テーマについて検討する。

椎野 若菜

7 学術会議関連報告

東京都立大学大学院 社会人類学

田中 華子

鈴木 文子

文化人類学

お茶の水女子大学大学院

北構 太郎

河音 能平

大

福田アジオ

阪市立大学 日本中世史

神奈川大学

退会

田中真砂子

光永 洋子
吾郷 成子

住所・所属等の変更

京都文教大学

(住所変更・一部所属変更を含む)

(所属変更)

野々村淑子

田澤 薫 国際医療福祉大学

九州大学

秀村 選三 福岡県地域史研究所

上杉 妙子 民族学振興会

奥田 伸子 名古屋市立大学

野村 明代

岡田 浩樹 甲子園大学

森 謙二 茨城キリスト教大学

武田佐知子

(電話番号等変更)

高橋由紀子

蕭 紅燕

(名前の訂正)
李 環媛

会員通信

・太田素子編『近世日本マビキ慣行史料集成』
刀水書房 一六、〇〇〇円＋税 一九九七年
刊

・善積 京子『近代家族』を超える「非法律
婚カップルの声」 青木書店 一五〇〇円＋
税 一九九七年六月刊

・芝 絃子訳『攻撃の人類学―ことば・まなざ
し・セクシュアリティ』(デイヴィッド・
ギルモア) 藤原書店 四四〇〇円 一九九
八年一月刊

・鈴木 七美『出産の歴史人類学』 新曜社
三八〇〇円 一九九七年二月刊

・林 由紀子『近世服忌令の研究』 清文堂
九九七五円＋税 一九九八年二月刊

・『茶人・OCHANOMIZU ANTHRO
POLOGY』volume 2 田中真
砂子教授退官記念集 一九九八年

◇この欄では会員の著作(単行本)を紹介して
います。『比較家族史研究』の書評、文献紹介
の資料にもなりますので、事務局までお知らせ
ください。

学会の周辺

○学術研究補助金について

財団法人日本性教育協会が、性教育や性科学の研究に補助金の交付を行っています。応募を希望される方は、直接同協会補助金係までお問い合わせください。

1 学術補助対象課題

人間の性、性教育に関わる、自然、人文、社会科学および学際的諸領域の研究。

2 補助対象者

前掲の研究課題に意欲的に取り組む研究者、または研究グループ

3 研究補助金一件六〇万円 四件

4 提出書類 同財団所定の申請書

5 応募締切 一九九八年六月一日

6 選考方法

学識経験者による審査委員会にて審査選考し、同財団理事会、評議員会で決定。

7 選考結果

一九九八年七月末日までに直接本人宛に通知。

『現代性教育研究月報』本年八月号に発表。

8 申請書請求先

〒一〇〇一〇〇五一 東京都千代田区神田神保町一―三 ミヤタビル二階

(財) 日本性教育協会補助金係

☎〇三―三三九一―七七二六・五一六一

FAX 〇三―三三九一―六二三八

○第三四回日本性研究会議 (JASS) 開催

日本性教育会議は、わが国におけるセクソロジーの基礎づくりを目指して、性を学際的に研究する場であり、今回は、第八回「学術研究補助金」対象研究の成果を発表する。

1 期日 一九九八年六月二七日(土) 午後一時～午後五時

2 場所 東京品川・コクヨホール(東京都港区港南一―八一三五)

3 参加費 一〇〇〇円(要参加票)

4 定員 一五〇名

5 申込締切 一九九八年六月一日

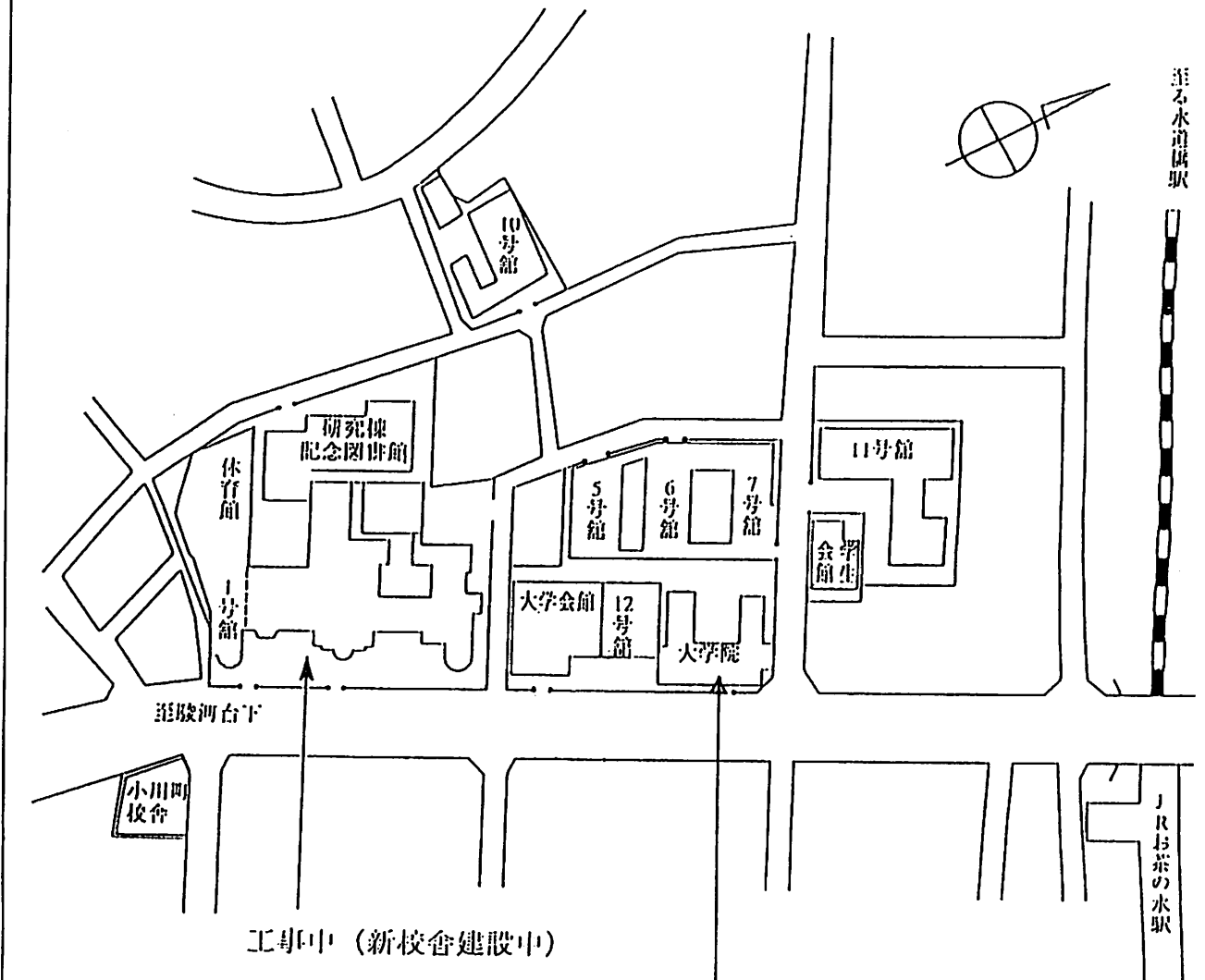
6 参加方法

はがき、またはFAXで、住所・氏名・電話・職業(勤務先等)・専門分野を記入の上、前記

(財) 日本性教育協会JASS係までお申込ください。



駿河台校舎



□研究大会・懇親会会場
 明治大学大学院内
 (南講堂・第一会議室・第二会議室)